

こどもの城 ニュース



1995・7・15 NO.59 発行/(こどもの城)広報部 ☎03-3797-5666 〒150 東京都渋谷区神宮前5-53-1

ドキドキ!! おもしろ 探検隊

(こどもの城)には
(あそび)がいっぱい。
どんな(あそび)が、
どんな(ところ)に
かくされているか、
力を合わせて探検しよう。

(こどもの城)の夏休み特別期間は7月21日金～8月31日木。7月24日月、8月7日月、21日月を除いて、毎日午前10時から午後5時30分(入館は5時)まで開館しています。

楽しいプログラムをいっぱい用意しました(2面に
関連記事)。ぜひ、遊びにきてください。入館料は
こども(3歳以上)400円、おとな500円です。

※9月1日、4日～6日は休館します。

『第10回 造形スタジオ展～手から心へ』

(7月21日～9月3日・造形スタジオ、ギャラリー)

『五線譜のなかの動物たち 16』

(8月2日～8日・青山円形劇場)

『第1回 人形劇カーニバル』

(8月15日～17日・青山円形劇場ほか)

※このほかにもたくさんの催しがあります。



開館10周年

〔こどもの城〕は、今年の11月1日で満10歳の誕生日を迎えます。すでに1,000万人を超える人々に利用されています。開館10周年を記念して、『イーハトーボの音楽劇 銀河鉄道の夜』(下記参照)をはじめ、いろいろな催しを企画しました。

イーハトーボ。イーハトーボはひとつの地名です。どこにあるのか、強いてその地点を求めるならば……すなわち、ここ(と、胸を示す)、ここにあると思われま。

イーハトーボでは、あらゆることが可能です。そこでは、天空を巡る大循環の気流に乗って、どこへでもあつという間に旅をすることができます。宇宙にさえ、旅をすることができるのです。

空を駆ける鉄道、銀河鉄道、何が起ころとも不思議はない。ほら、おかしな男が乗ってきた。

君を照らしてくれるものは
何もないから気をつけて。

小学校5・6年のころ、ちよつと手術の麻酔事故で友だちが人だてに死んだのです。そのとき、死に対する恐怖よりも、はかなさ、むなしさを感じたことを、今でも覚えています。おとなになるということ、あついろいろな刺激(肉体的、感覚的)に慣れていくこと、知識や知恵でカバーできることとすると、もし今回の公演を父親と息子で観ることができれば、人生においてとても素敵な関係を見つかるきっかけになるのではないのでしょうか。
(鳥捕り・赤星昇一郎さん)

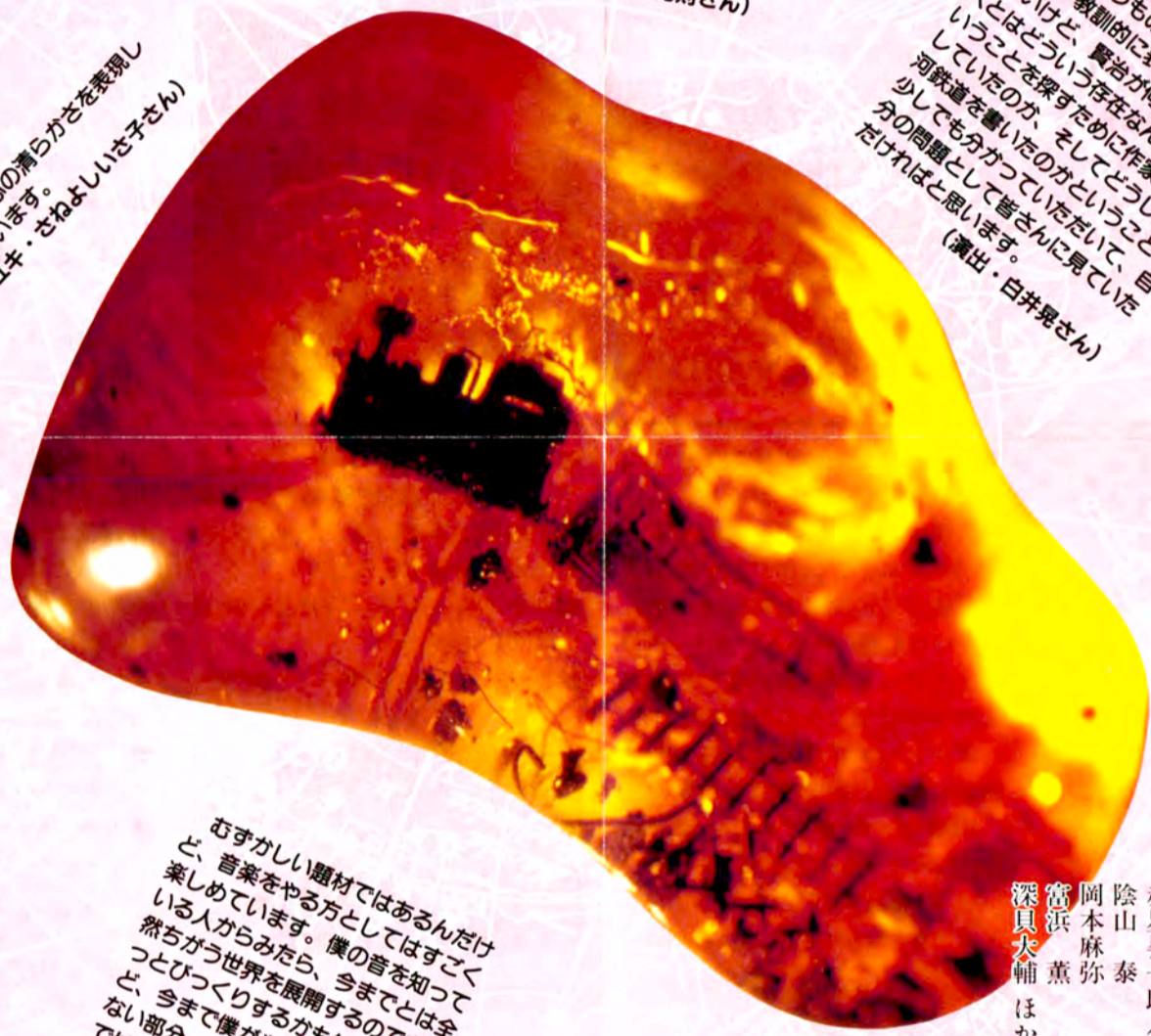
歌で人の心の清らさを表現したいと思います。
(アメリキ・さなよしいさ子さん)

その道を真っすぐに歩いていこう。
それがどこにもたどりつかなくても、
もうそのことが、
たどり着いたより大事なんだ。

本読み終わって感じることは、これは、もしがて、とてつもの、めちゃんこカッコいい舞台になるんではないかなと思います。物語はすごく素敵です。見に来てくれたらうれしいな、と思います。
(ジョバンニ・伊崎充則さん)

宮沢賢治の代表作である銀河鉄道の夜を宇宙的な広がりを持った音楽と、舞台美術をもつておもしろく、でも宮沢賢治の精神を表せるようにスケール大きく作られたテーマはジョバンニが大切に死という最大の親友を失った死というものを表現するつもりではないけど、賢治が何を思つて、人とはどういふ存在なんだろうというのを探るために作家活動をしてきたのが、そしてどうして銀河鉄道を書いたのかというのを少しも分かっていただけて、自分だけの問題として皆さんに見ていただければと思います。
(演出・白井晃さん)

戻ろうかどうしようか、
あれこれ迷っているんだよ。



むずかしい題材ではあるんだけど、音楽をやる方としては全楽しめています。僕の音を知っている人がいたら、今までは全然ちがう世界を展開するのでもっととびつくりするかも知れないけど、今まで僕がやりたくてもやれない部分、ただ綺麗で楽しい世界ではなくて、裏にあるいろんなものを表せるので、すごくおもしろい。
(音楽監督・中西俊博さん)

賢治の作品が古典文学とか児童文学とかではなく、今を生きるあらゆる世代の人達に今の問題として、今の物語として、伝わればいいなあ、と思っています。
(脚本・能祖将夫さん)

キャスト
伊崎充則(ジョバンニ)
石村美果(新人・カムパネルラ)
清水明彦(ケンジ)
さなよしいさ子(アメリキ)
赤星昇一郎(鳥捕り)
陰山泰
岡本麻弥
深見大輔 ほか

スタッフ(原作) 宮沢賢治(脚本) 能祖将夫
(演出) 白井晃(音楽監督) 中西俊博
(舞台演出) 小竹信節

主催 ● こどもの城
後援 ● 厚生省/読売新聞社/日本テレビ
(助) ● とも未来財団/宮沢賢治記念館
協賛 ● 富士銀行 ● 財団法人船橋振興会補助事業
企画制作 ● こどもの城劇場事業本部

95年8月3日(木) ↓ 7日(月)
青山劇場

手前が伊崎充則さん(ジョバンニ)、後列左から、清水明彦さん(ケンジ)、さなよしいさ子さん(アメリキ)、赤星昇一郎さん(鳥捕り)、石村美果さん(カムパネルラ)

数字の中に、 子どもたちが 見えてくる。

—ベネッセの『モノグラフ』です。



4月1日 福武書店はベネッセコーポレーションに社名変更しました。



日々変化する子どもたち—
小・中・高校生の意識や生活
スタイルをリアルタイムでとらえ、

21世紀の教育の新しいあり方を考える、ベネッセ教育研究所(旧・福武書店教育研究所)。なかでも様々な角度から子どもたちの“いま”をリサーチ、分析してお届けする定期レポート『モノグラフ』は、全国の教育現場をはじめ、マスコミ、官公庁で高い評価と信頼をいただいています。ひとつひとつのデータから子どもたちのホットな実像を見出し、子どもと子どもをとりまく社会の「Benesse—よく生きる」を応援したい。ベネッセコーポレーションの思いはここにも生きています。

※モノグラフ についてのお問い合わせは、ベネッセ教育研究所 TEL:0423-56-0841まで

